



武庫川総合治水室と仁川事業事前意見交換会実施



土砂掘削から約15年でここまで砂堆積と樹木繁茂した。



仁川合流点で除伐・除草工事が始まる。



南部橋架橋工事 3月7日最後の橋桁架けられた



羽束川合流点の河床掘削で大量の濁水発生も止む得ないの



千苅ダム下流側護岸復旧、安全にハイキング楽しめる。

武庫川流域河川整備計画に従って、環境二原則を遵守した整備が進められている。昨年の台風19号は武庫川流域に被害発生はなかったものの、全国各地に大きな災害をもたらし、この規模の台風が武庫川流域を襲ったら現計画で耐えられないことも危惧される。兵庫県でも計画の前倒しが検討実施されている模様。安全と環境はトレードオフのと言われることが多々あるが、安全を守りながら環境も守るといった難しい取り組み事例の1つが、仁川合流点事業前に、仁川を起点に活動している市民の声を聞く機会を武庫川総合治水室で用意された。安全を基本に生きもの観察してきた経験から生きものとの折り合いについて思いを伝えた。市民の声が活かされているのか見守るのも武庫川守の大事な活動の1つである。工事半ばではあるが、市民の声が活かされていることが感じ取り参画と協働の川づくりのモデルケースの1つが仁川だろうと思う。千苅ダム下流護岸崩壊箇所も奇麗に復旧された。ハイカーは何も気付かないまま通り過ぎていくが、こんな所にも環境に配慮した河川改修工事が進んでいることを嬉しく思う。南部橋架橋工事も順調に進んでいるように見えても左岸側取り付け路工事始まる様子が見られず、行政には市民には分からない苦労があるのだろうと思う。市民目線川を見守り、安全と環境の調和のとれた川づくりに少しでも貢献していきたい。